



小雨に打たれた梵天の花 (9月5日撮影)



金光寺寺報
第195号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
0982
83-2338

今月法語カレンダーのことは

がんりきむぐう

願力無窮にまします

ざいあくじんじゅう

罪悪深重もおもからず

9月の法語は、『正像末和讃』の中の一つ、
願力無窮にまします
罪悪深重もおもからず
仏智無辺にまします
散乱放逸もすてられず

の前半部分です。現代語に訳すと「阿弥陀仏の本願のはたらきはきわまりないので、深く重い罪が重すぎて、救われないということはない。阿弥陀仏の智慧のはたらきは広大無辺であるから、散り乱れた心で勝手気ままな行いをするものであっても見捨てられることはない」となります。

「願力無窮」と「仏智無辺」が阿弥陀さまのはたらきを表わし、「罪悪深重」と「散乱放逸」が私の悲しいあり方を表わしています。その悲しいあり方をしている私が、阿弥陀さまのはたらきによって救われていくのです。罪悪深重で

いい、散乱放逸でいい、とっているのではありません。でもそれが、偽らざる私の現実の姿なのです。いや、そのことにさえ気付いていない私がいるのです。そんな私が「願力無窮」「仏智無辺」に出会った時、「罪悪深重」「散乱放逸」の私が見えてくるのです。そして、そんな私のあり方を問題とすることなく包み込んでくださる大悲の心に出会った時、少しでも仏さまを悲しませない生き方をしようという思いも出てくるのです。それは、ちょうど親の愛情に触れた時、自分が親不孝者であることが知らされると同時に、少しでも親に迷惑をかけない生き方をしようと思うのに似ています。仏(親)さまを悲しませない生き方をするのは簡単ではありませんが、その思いが私を少しずつ正しい方向に導き、お育て下さるのです。

(本願寺出版社刊「大乘」誌より転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

9月
12日(火) 午前中日
14日(木) 終日
18日(月) 終日
25日(月) 終日
10月
4日(水) 午後
21日(土) 午後
~ 22日(日)

8月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2017年 8月 7日寂 満72歳
熊本市 唐木 國男 様
- 2017年 8月 13日寂 満95歳
東光寺 杉村 ナツエ 様
- 2017年 8月 13日寂 満95歳
祇園町 藤木 アサエ 様
- 2017年 8月 15日寂 満88歳
祇園町 曾我部 房子 様

ホームページ開いています。
URL <http://konkhoji.jp/>
9月5日現在 アクセス数 79,702人

仏教用語豆辞典

不如意

「目下、手もと不如意で、借金を断るときに、よく聞かれるセリフです。資金に乏しく思うに任せませんので、という意味でしょう。」

このように「不如意」は思いのままにならないことをいいます。
『西遊記』で活躍する孫悟空は、「如意棒」という伸縮自在の不思議な棒を持っていますね。「如意」は思い通りになること、自分の意のままになること、仏教では、それは悟りを開いた人の達する自由自在の境地を意味します。如意智や如意通、如意力という語もあります。法会の時など、僧が持つ、手のような形をした道具を「如意」といいます。
意のままに宝を出すという願

望成就の珠を「如意宝珠」とい、密教ではこれを本尊にする法要もあるようです。
「如意輪観音」は、宝珠と宝輪を持って、人々の願いを叶える観音といわれています。
このようにみると「如意」は仏・菩薩の世界ですね。われわれ人間の世界はもっぱら「不如意」ですな。「百事如意」などなかなか。
(本願寺出版社発行 辻本敬順著 仏教用語豆辞典一〇〇 PART 1 から)

住職ひとりごと

二学期に入り、通学時の子どもたちの元気な声が聞こえはじめました。夏休み中、小学生に会うと、「宿題順調？」と声をかけることしばしばでしたが、元気に「ハイ」の子もあれば、返事はなく下を向く子など、反応は様々でした。もうずいぶん前のことになりましたが、宿題が完了せず、始業式の先生の顔をまっすぐ見ることができなかつたことが思い出されます。だから、順調な二学期のスタートであればと思うことです。中学校が廃校になり、二年目の秋を迎えます。夏休み中から体育祭の準備をしていたり、二学期が始まり一生懸命体育祭の練習をしている子どもたちの喚声を今も聞くことができませぬ。改め、廃校になったこと、寂しさを感じる毎日です。子供たちはいままもなく立派な建物存在していませんが、間近に子供たちの喚声を聞くと、小学校校舎の運動会練習の様子を聞き取ることができませぬ。(住職 松井卓郎)

俱会一処の縁

今年のお盆は大変な状況になりました。「初盆をお迎えになられたお宅の初盆参り、今年は割と少ないな」と思っていたのですが、十三日、早朝に臨終勤行(通称・枕経)に行くことになりました。初盆のお参りをしていると、再び、臨終勤行依頼の連絡があり、午前十一時過ぎに臨終勤行をとめました。初盆のお参りを再会し、午後五時前に何とか終わることができました。午後六時からはお通夜をつとめて午後七時に帰宅。法衣を脱いでほっとしたのもつかの間。再び、臨終勤行の依頼があり、おつとめをし、お通夜と葬儀の日程を決めて帰宅したのは午後十一時前でした。

初盆のお参り、二日目の十四日、スタートは午前七時半からの葬儀でした。葬祭場で

葬儀を済ませ、初盆のお参りを始めました。息子と二人で十軒のお参りを終わらせたのは午後五時前。午後六時からおつとめを済ませて十四日を終えました。十五日は午前八時に臨終勤行をつとめ、正午から葬儀。午後六時からお通夜。十六日は午前十一時から法



事、午後一時から葬儀、午後六時からお通夜でした。十七日、正午から葬儀をつとめてお盆から続いた葬儀のご縁を終えることができました。もちろん、葬儀のあとは火屋勤行、還骨勤行、礼参りもつとめましたので、本当に分刻みと言ってもいい状況でした。葬儀のご縁で僧侶は別れの悲しみ、苦しみを目のあたりにします。しかし、阿弥陀さまのお慈悲は故人と私たちをお念仏によつてしっかりと結び付けてくださる。いつか再び会える所(俱会一処)がある。そして、別れた今、合わす掌に仏となられた故人は還り来て、迷えるこの身を案じてくださる喜びを遺族と一緒に味わうことができます。ところで、八月最終日、三十一日に宮崎市で高校時代の同級生の葬儀のご縁がありました。高校三年生の頃、机を並べて受験勉強の苦しみを一緒に味わい、共にスポーツに汗した爽快感、喜びを感じた

友でしたので、突然の訃報に言葉もありませんでした。二年間の癌とのたたかひの末のご逝去でした。葬儀は曹洞宗のご宗旨でつとまりになりました。厳粛な中、粛々と葬儀は進み、いよいよ、喪主のあいさつを残すのみとなりました。その前に、ご導師退場の前のお言葉が次のようでありました。「故人はこれから二年間ほど娑婆世界を旅しますので、この空間にいらつしやいます」「喪主のごあいさつも同じく、「主人は二年間ほどこの空間に居るそうです。その後、仏弟子になるそうです」とのこと。改めて、私は浄土真宗で良かったなと思つたことでした。娑婆の縁尽きたら、すぐに迷いの世界からお浄土へ救われ、悟りの智慧をいただくことができるのですから。残念なのは、高校時代に苦楽を共にした彼は釈迦如来のお浄土、私は阿弥陀さまのお浄土と救いの国が違い、再び会えないことです。

法語の世界

〈原文〉

信心治定の人(ひと)はたれによらず、まづみればすなはちたふとくなり候ふ。これその人のたふとくにあらず。仏智(ち)をえらるるがゆゑなれば、弥陀(みだ)仏智(ち)のありがたきほどを存(ぞん)すべきことなりと云々。

(蓮如上人御一代記聞書 二百十)

〈現代語訳〉

「信心(しんじん)がたしかに定(さだ)まつた人はどんな人(ひと)であれ、一目(ひとめ)その人(ひと)を見ただけで尊(とつと)く思(おも)えるものである。だが、これはその人(ひと)自身が尊(とつと)い(いと)ではない。弥陀(みだ)の智慧(ちえ)をいた(いた)だ(だ)いて(いて)いるから尊(とつと)い(いと)のである。だから、弥陀(みだ)の智慧(ちえ)のはたらき(き)のあり(あ)り(あ)が(が)た(た)さを思(おも)い(い)知ら(ら)なければなら(ら)ない」と仰(おほ)せ(せ)になりました。

秋季彼岸会法要のお知らせ

日 時 場所 講師 その他

九月二十三日(土) 午前十時
 金光寺本堂 正信念仏偈(草譜) 和讃六首引き
 金光寺衆徒 松井 慧師
 彼岸会法要にご参詣の方はお経本をお持ちでない方は金光寺にあります。
 彼岸会法要は金光寺仏教婦人会例会になつております。仏教婦人会会員の皆さまのご参詣をお願いします。
 一般の方々のご参詣もお待ちしております。

10月上旬秋参りのお知らせ

例年、10月から秋参りを始めます。そのスケジュールを10月号の寺報でお知らせしていますが、寺報が届いていないケースでお参りをし、知らなかったと言われることがありましたので、10月13日までのスケジュール(予定)をあらかじめお知らせします。あくまでも予定ですので変更することもあります。

日	月	日	場所
10月	2日	(月)	協和・長崎、小切畑 芋の八重、祇園町
10月	4日	(水)	祇園町、芋の八重 矢惣園上
10月	10日	(火)	丁子、中村、笠部
10月	12日	(木)	寺村、東光寺、中園
10月	13日	(金)	予備日